

第21回グアム派遣生交流の実（じつ）と花

卯月 啓子

柏市は平成3年にグアムと友好都市提携をし、グアムとの交流派遣も21回となりました。この派遣プログラムは、観光を目的としたものではなく、ホームステイをしながら学校や公共施設などを訪れ、グアムの人達と交流し、見識を広めます。毎回、派遣された中学生たちの成長ぶりには目を見張るものがあります。行く前と帰ってきたときの顔は別人のように自信に満ちていると言っても過言ではありません。この交流で国際感覚を身に着けた人材が多く巣立っていきました。

今回は10人（男子5人女子5人）の中学生が派遣されました。公立、私立の違いも含め、学年も別です。この派遣生に応募し選ばれて初めて顔を合わせてから、7回のオリエンテーションを経て、英語力の向上や、グアムの文化、訪問への態度等を教えられます。

交流とは人間関係を広げることです。濃密な人間関係を作るということです。人間関係を広げるとは自分の枠を広げることです。日本という一つの窓から見るのではなく、グアムという窓から日本を見、ひいては自分を見つめる経験をします、新たな風が一気に流れこんできます。その風は心地よい場合もあるし、厳しく感じる時もあります。英語をうまく話せないことによるストレスもあります。文化の違いに戸惑うこともあります。各人の思いや困惑等を乗り越え、交流の実をあげたのは、「グアムの生徒と交流したい」という強い願いからです。

6泊7日という短期間のプログラムに、グアムのセントフランシス校の関係者の皆様の歓迎は温かく、気遣いに満ちたものでした。まさに、「おもてなし」の心に富んだものでした。ロレッタ先生、ジャレット先生のご指導のもと、セントフランシス校の生徒たちの心遣いで気持ちよく過ごすことができました。グアムとの出会いは、各人の人生に花を咲かせてくれました。

この報告書を読んでいただくと、柏市の派遣生達が何を感じ、何を学んできたのか、何を糧にしてきたのかよくわかります。中学生というまだ人生の若いうちにこれだけの大きな経験を受けたということは、彼ら全員の成長を促したことと推察します。この有意義な国際交流の体験が、単なる楽しい思い出だけに終えることなく、今後の活動や学業に活かされることを期待します。同時に彼ら同士の友情をずっと持ち続けてほしいと切に願います。最後に、この派遣プログラムを支えてくださったすべての皆様に感謝の言葉を捧げます。

